

参加費
無料
(事前申込制)

主 催：経済産業省

平成29年度 苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業

● CCSシンポジウム

「CCSの今後を考える」

平成29年
12月13日(水) 14:00~17:55 (受付開始 13:30)

STATION
CONFERENCE
ステーションコンファレンス東京

会場：ステーションコンファレンス東京 5F 503 ABCD (JR東京駅日本橋口)
東京都千代田区丸の内一丁目7番12号 サピアタワー5階

参加申し込み要項

- 【定 員】 200名 ※先着順
- 【応募方法】 「CCSシンポジウム」と明記の上、参加者の、①氏名(会社・所属・役職も) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 を書いて、FAX、E-mail のいずれかで、お申し込みください。折り返し参加票をお送りいたします。
※当日は参加票を5F会場前の受付にご提示ください。
- 【申込先】 FAX：03-6268-7385 または、E-mail：symposium@japanccs.com
- 【応募締切】 定員に達し次第、締め切らせていただきます。
- 【当選通知】 当選された方にのみ、参加票を発送いたします。参加票は、11月以降の発送予定です。

※お預かりした個人情報は、本件以外の目的では使用いたしません。
※応募結果、発送状況等についての個別のお問い合わせはお受けできません。

お問合せ先

CCSシンポジウム事務局：日本CCS調査株式会社

☎ 03-6268-7610 (担当：総務部 吉田) または symposium@japanccs.com

「CCSの
今後を考える」

開催趣旨

平成29年12月には、苫小牧でのCCS大規模実証試験事業におけるCO2貯留量が10万トンに達する見込となりました。わが国では過去に1万トンのCO2貯留実績しかありませんので、この度の10万トンは、CCSにおける実用化水準と言われる年間100万トンに至るマイルストーンとなります。については貯留量が10万トンに達するまでの成果と今後の課題などを検討のうえ、今後のわが国のCCSの発展に活かせるためのシンポジウムを開催したいと考えます。

PROGRAM

14:00～14:05 開会挨拶

(調整中) 経済産業省

14:05～14:15 【課題提起】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の今後への期待

北海道苫小牧沖で、2016年4月より開始されたCCSの大規模実証試験は、その後順調に圧入が続けられています。この成功をもとに、温暖化対策において欠くことができないCCS技術を、わが国においてこれからどのように発展させていくか、衆知を集め広く議論を進めるための課題提起を行います。

公益財団法人 深田地質研究所

理事長

松岡 俊文

14:15～15:00 【講演】地球温暖化とパリ協定後の世界の動向

2015年末に採択され翌年発効したパリ協定は、今後の各国の温暖化対策が目指すべき究極的な目標を提示しました。即ち、平均気温上昇幅2℃目標と、それに到達するために今世紀末までの実質排出量ゼロ目標です。すでに世界はその目標に向けて大きく舵を切っており、ここではその動向の一部を紹介します。

国立研究開発法人 国立環境研究所
社会環境システム研究センター

副センター長

亀山 康子

15:00～15:45 【講演】日本の温暖化対策政策について

(調整中) 経済産業省

15:45～16:30 【講演】世界のCCSにおける苫小牧CCS大規模実証試験事業の位置づけ

日本CCS調査株式会社

顧問 国際部長

澤田 嘉弘

【講演】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業のこれまでの成果と実績

日本CCS調査株式会社

技術企画部長

田中 豊

16:30～16:45 休 憩

16:45～17:30 【講演】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業のPAIについて

北海道苫小牧市のCCS大規模実証試験事業に対し、地域ではどのような社会的受容がなされているか、現時点における状況を紹介します。2014年から2017年にかけて苫小牧市において行った社会学的な調査と、その結果を踏まえて報告します。

ロバート・ゴードン大学(英国)

環境社会学博士

レズリー・メイボン

17:30～17:50 【総括】苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の今後への期待

公益財団法人 深田地質研究所

理事長

松岡 俊文

17:50～17:55 閉 会

12/13 CCSシンポジウム・参加申し込み

氏 名	様	住 所	〒
会社・所属・役職		電 話 番 号	TEL

FAX : 03-6268-7385

CCSシンポジウム事務局 行

